

症例誌と文学と社会： 医学と様式と歴史の複合

文理連接のプロジェクト 第一回

鈴木晃仁 (慶應義塾大学)

2019/04/16

文理の接続プロジェクト

- 自己紹介
- 文系と理系の二つの学問領域を接続すること
- 医学史と隣接した多くの領域へのメッセージ
- **1920年代から1945年の王子脳病院の症例誌**

構成

- 背景
 - 精神医学・精神医療の歴史のめざましい発展
 - 症例誌の利用
 - 症例誌でないものの利用ー中世フランス
- 王子脳病院の症例誌の特徴
 - 医学と技術のジャンル
 - 医者と家族のジャンル
 - 患者のジャンル
- まとめ

精神医学と精神医療の歴史

- 書籍、必携書、専門誌 (History of Psychiatry)、医学史雑誌など。
- Maria Böhmer. The Man Who Crucified Himself. Brill | Rodopi, 2018.
 - 19世紀のイタリアの事例が、フランス、ドイツ、イギリスで異なった主題として扱われたこと
- 翻訳された教養階層向け一般書
- 中村江里『戦争とトラウマ: 不可視化された日本兵の戦争神経症』(2017)

症例誌の利用

- 症例誌（診療録）の利用
- 医者、患者、病院、行政などのエレメント
- 大規模な病院だと統計的な分析も可能

症例誌ではない併存ー中世フランス

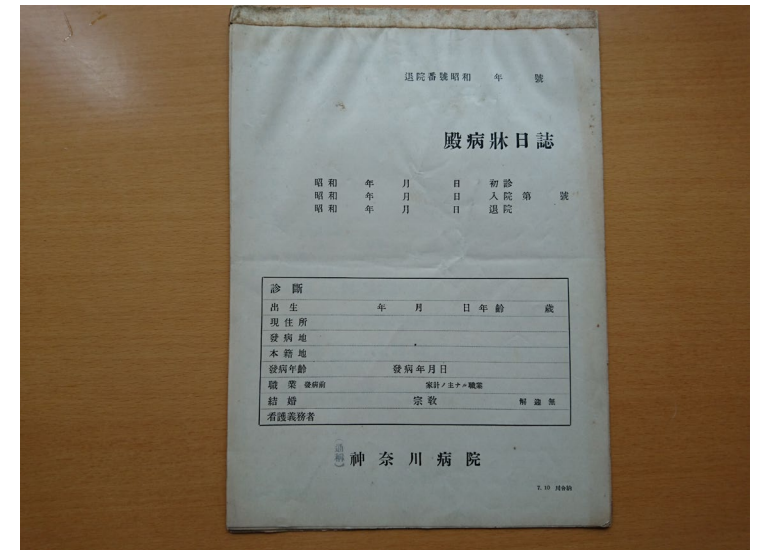
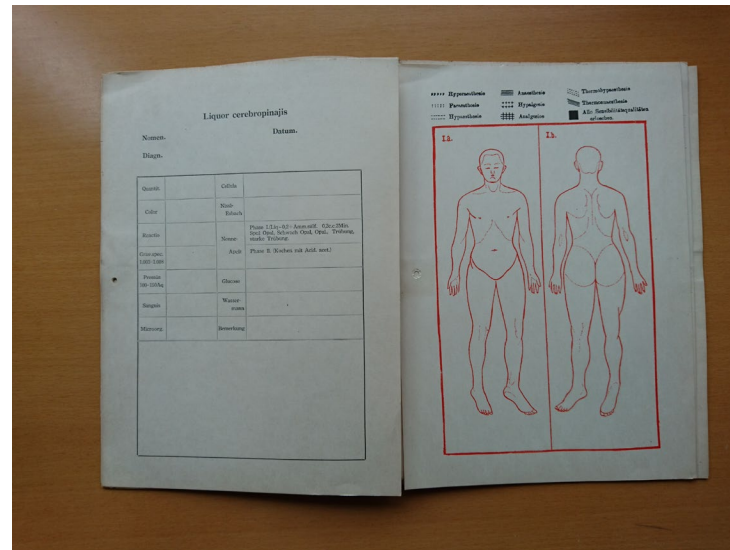
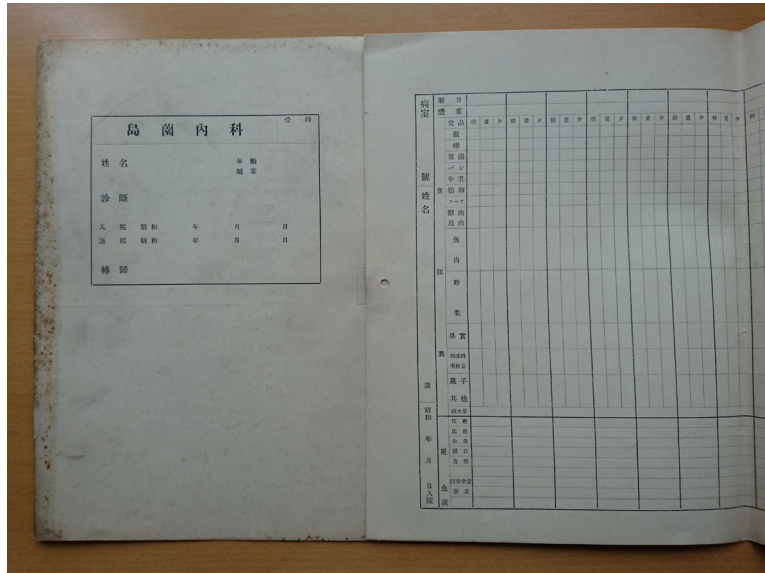
- Huot, Sylvia Jean. *Madness in Medieval French Literature: Identities Found and Lost*. Oxford University Press, 2003.
- 医学と聖人伝と中世騎士物語という異なったジャンルにおける異なった狂気の提示

日本の症例誌

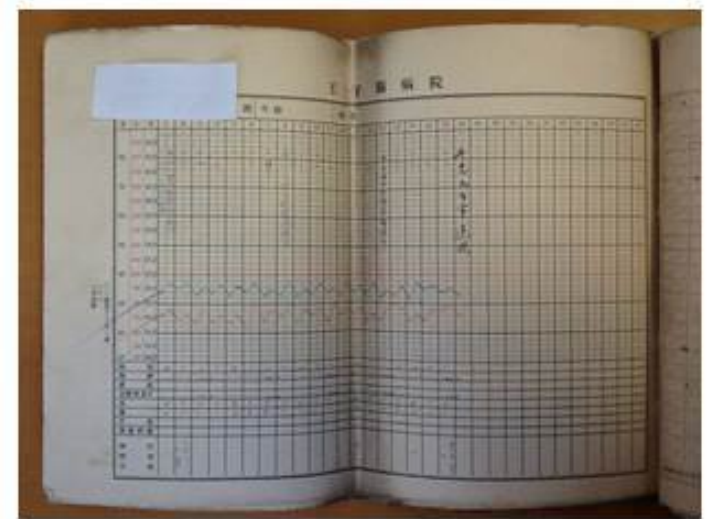
- 多くの精神病院が過去の資料を保存している。
- 松沢病院、九州帝国大学医学部精神科、慶應大学の医学部神経科、王子脳病院、武蔵野病院など
- ハンセン病の療養所、原爆関連、公害関連、産婦人科。

王子脳病院（小峰病院・瀧野川病院）

- 1901に開設、1945年の空襲で閉院
- 小峰茂之の成功 自殺、同性愛、妖怪
- 他の病院の症例誌を参照



王子脳病院の病床日誌、看護日誌、体温表



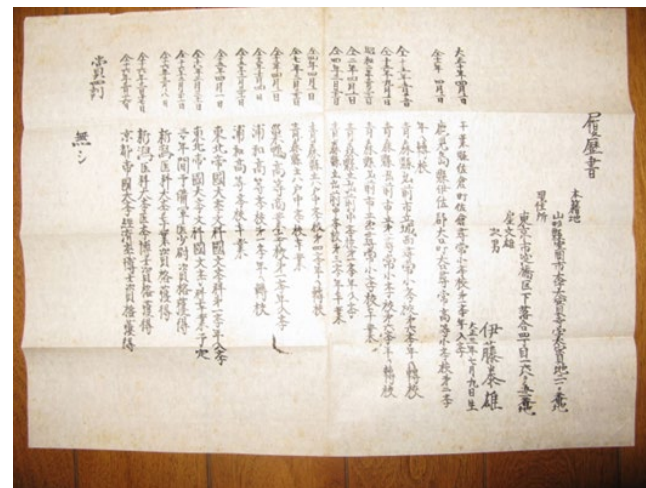
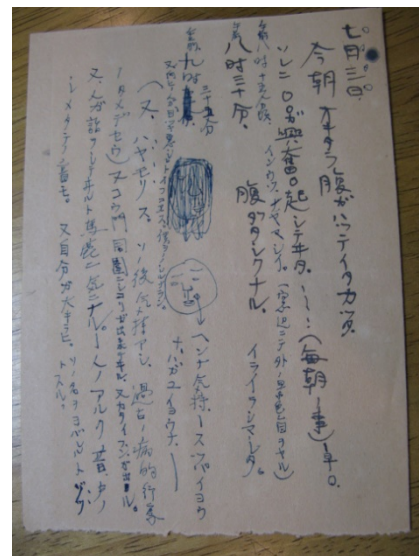
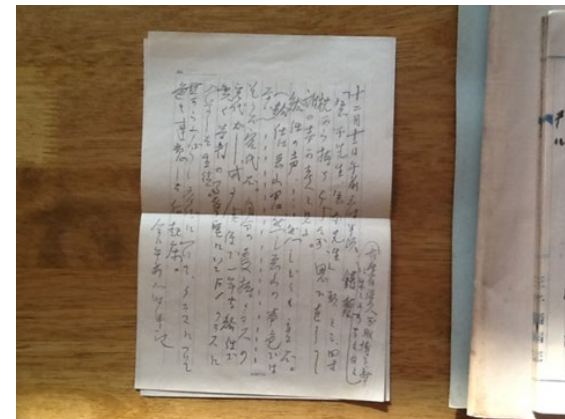
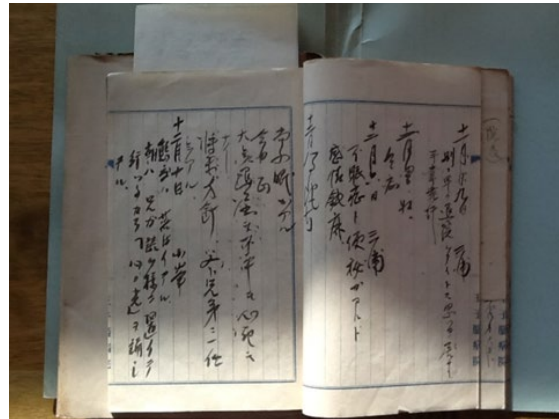
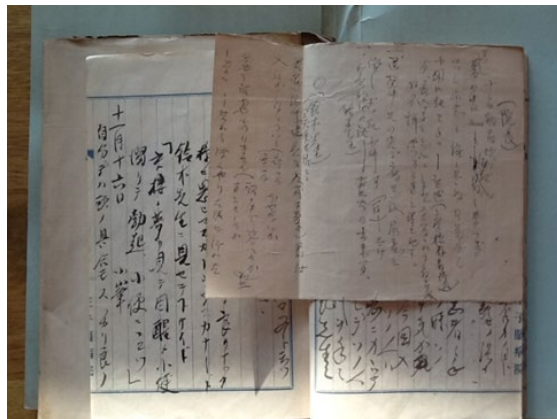
昭和11年 小峰病院處方箋			
醫 員	姓 名	年 齡	處 方
		34	
	3/5	1) As K N 100.0	X
		Shf Valerian 4.0	3X
		T. opu 1.0	
		2) P. S 3.0	
		Vronal 0.4	
		Cap phosph 0.04	3X
		Luminal 0.06	
		Kalkol 0.5	
		Sulfonal 0.8	
		3) Bromam 0.4	1X
		Vronal 0.3	
	2/11	Chim. hydrochloric 0.6	3X
		Planactin 1.0	
	4/6	Hyd. Liav. ed 100.2	3X
		Stript am 1.0	
		As. opu C 10.0	10X

昭和11年 王子腦病院處方箋			
姓 名	年 齡	處 方	
	60		
2/10	1) P. S 2.0		3X
	2) (9/5) Medital 2.5		1X
7/5	2) Sulfonal 0.6		1X
	Na. bicarb. 0.5		

昭和14年 王子腦病院處方箋			
醫 員	姓 名	年 齡	處 方
		53	
	14/11	1) As K N 100.0	3X
		Rel. joo 0.5	
		Stroph 1.0	3X
		2) P. S 3.0	
		Luminal 0.06	3X
		Vronal 0.5	
		3) Vronal 0.4	1X
		Bromam 0.3	
	2/12	Chim. hydrochloric 1.0	3X

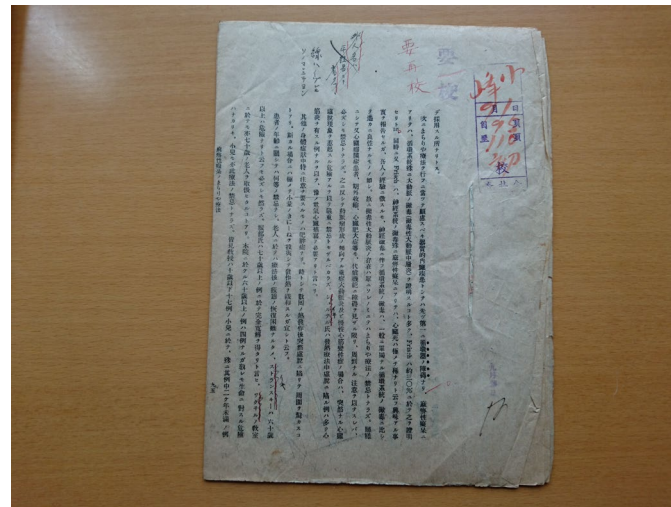
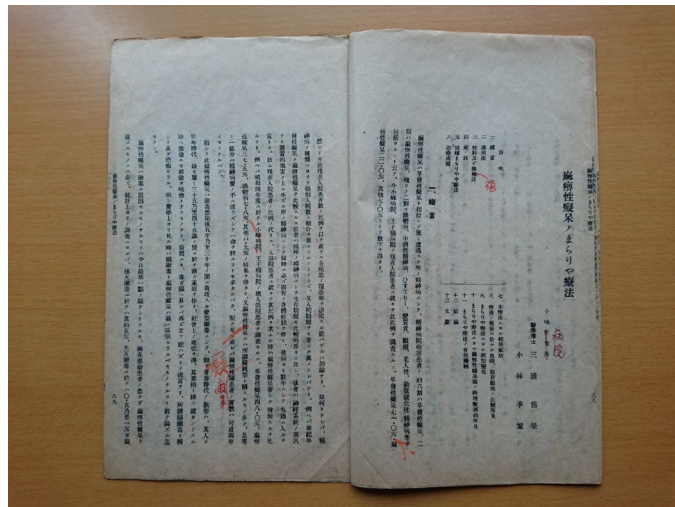
症例誌：処方

患者によるプラスα

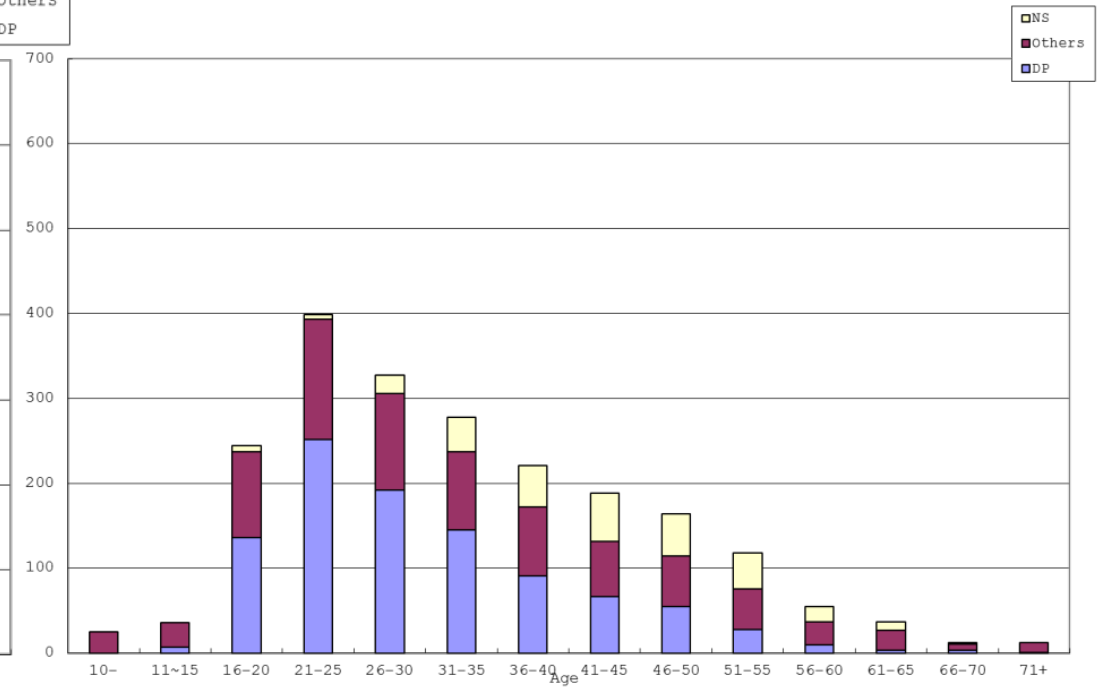
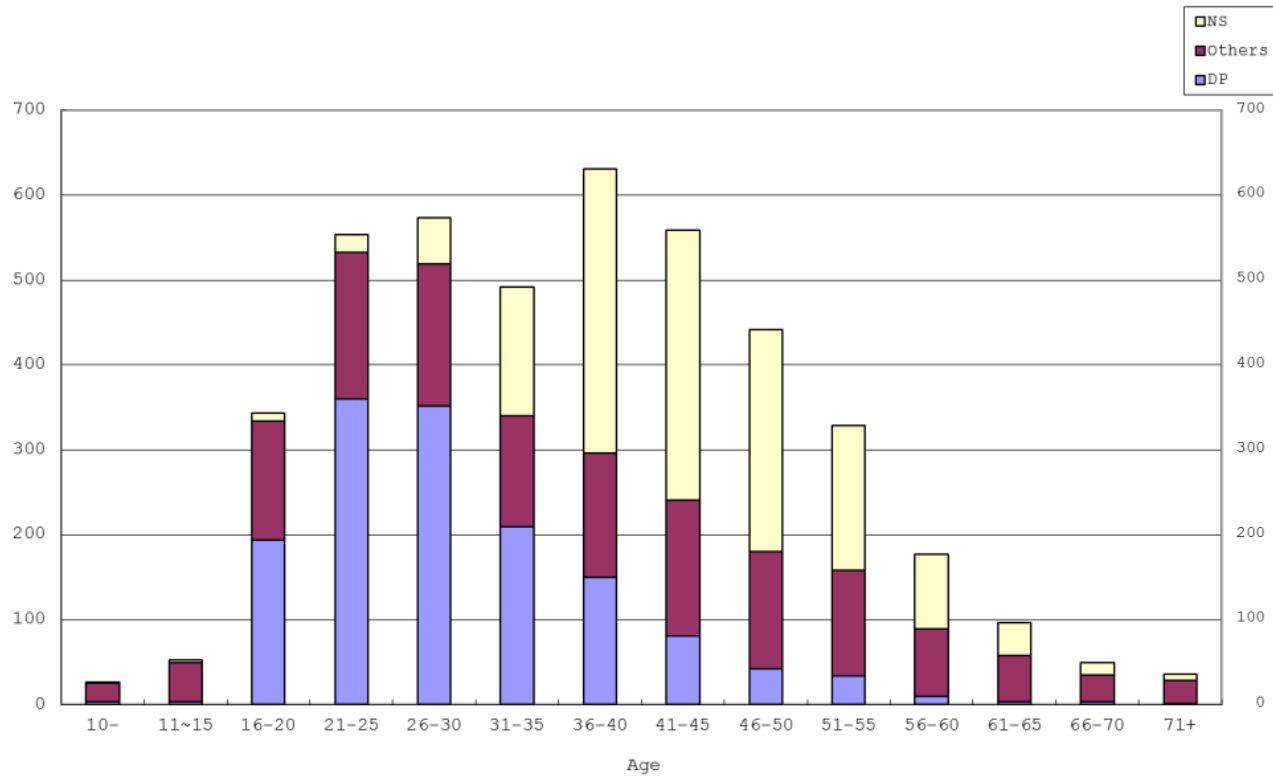


梅毒の発見と治療

- 1905年の病原体の発見
- 1906年のワッセルマン反応の発見
- 1910年のサルヴァルサンの発見
- 1917年の麻痺性痴呆を治療するマラリア療法の発見
- 血清学と抗原・抗体



梅毒と麻痺性痴呆



日本における導入

- 検査と製薬産業
- 秦佐八郎の貢献
- 1914年からジェネリックの大量生産
- 消費が可能になる

医師の日独混合言語

主訴 Schlafstörung, Kopfschmerz, Müdigkeit, Nahrungsvorgierg

[illegible]

Schlafstoerung, Kopfschmerz Mutismus, Naehrungsverweigerig

昨年12月中頃より年末まで Erkaeltung で休学していた。
しかし正月には元気になった。正月9日頃よりかなり勉強をなした。
12日頃より ○, Nausea und Erbrechen はないが Kopfschmerz を
klagen 休校していた。追々 Nacken u. Schulterspannung etc をもklagen する様にな
ったので、Elektrotherapie を受けた。すると
herzkloppen がした。以来二、三日前まで電気が伝はる、Electrotherapie はいや
だと称するようになった。二、三日前より Schlag は
storenされ、Mutistischとなり、Negativismus ○ Nahrung und
Mittelerwaigerung を呈するようになった。説明すれば一応、食物や薬物
を摂取する気になるも、いざ口まで運ぶと、verweigern するようになった。
昨日より Kopf を絶えず左右に振って、unruhig となった。しかし Wahn
u. Halluzination etc はないらしいと。一昨晚と昨晩は殆ど schlafen していない

Schlafstoerung [不眠症], Kopfschmerz [頭痛], Mutismus [無言症], Naehrungsverweigerig [栄養拒絶]

昨年12月中頃より年末まで Erkaeltung [風邪] で休学していた。

しかし正月には元気になった。正月9日頃よりかなり勉強をなした。

12日頃より ○, Nausea [吐き気] und Erbrechen [嘔吐]はないが Kopfschmerz を klagen [訴えて] 休校していた。追々 Nacken [首] u. [=und, そして] Schulterspannung [肩の張り] etc をも klagen [訴えて] する様になったので、Elektrotherapie を受けた。すると

Herzkloppen [心悸亢進] がした。以来二、三日前まで電気が伝はる、Electrotherapie はいやだと称するようになった。二、三日前より Schlag [衝撃] は

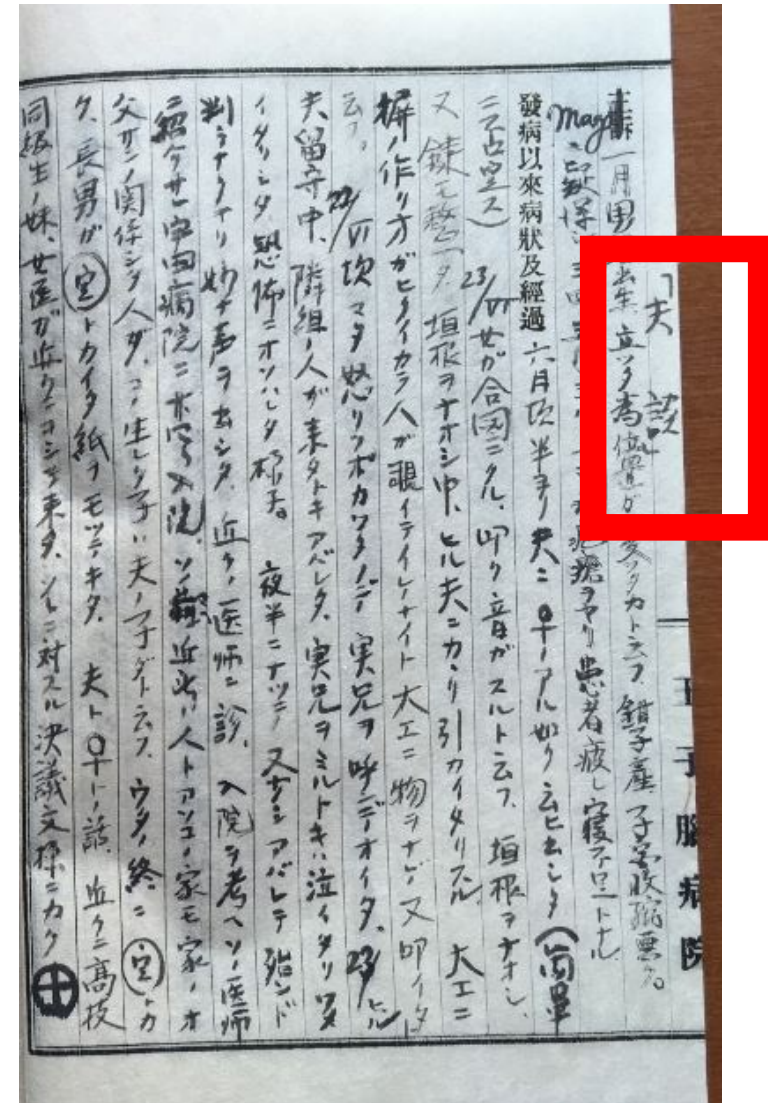
storen され、Mutistisch となり、Negativismus 即 Nahrung und

Mittelverwaigerung を呈するようになった。説明すれば一応、食物や薬物を摂取する気になるも、いざ口まで運ぶと、verweigern [拒絶] するようになった。

昨日より Kopf [頭] を絶えず左右に振って、unruhig となった。しかし Wahn u. Halluzinazion etc はいらしいと。一昨晚と昨晩は殆ど schlafen していない

家族と職場による物語

- 家族が自分の家のメンバーである患者の行動を報告して、医師が転記する
- 女性の症例誌
- 職場の参加
- 警察の参加－渋谷事件と朝鮮人



A, B, C の三人の女性患者の人間関係

- A 1933/12-1940/12 41歳 早発性痴呆
- B 1932/02-1941/08 22歳 重い早発性痴呆
- C 1933/03-1943/09 42歳 新興宗教

終わりに

- 梅毒とメディカル・マーケット
- 医師と家族の双方が重要な語り手
- 人格を持つ長期滞在の患者も存在
- 教育の問題
- 医学史と記憶と文理連接